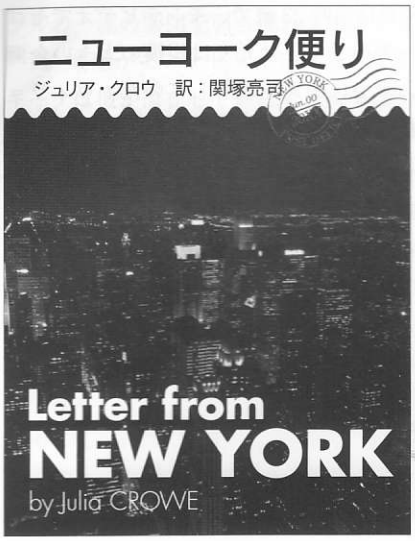

●アメリカの新鋭ギタリスト、マット・パーマー

ギタリストのマット・パーマーは、アリゾナ大学で音楽学博士号を取得しているが、在学中に師事したのはトーマス・パターソン教授、客員教授のデイヴィッド・ラッセル、セルジオ・アサド、オダイル・アサドである。

彼は20歳になって初めて、ミドル・テネシー州立大学のウィリアム・イエルヴァートン博士のもとで正規の音楽教育を受けた。音楽学修士号を取得したアパラチア州立大学では、ダグラス・ジェイムス博士に師事した。

彼は、ビーストン記念コンクール、ショーリン記念コンクール、コロンバス州立ギターシンポジウム＆コンクール、ASUコンチェルト・アリア・コンクール、MANCコンクールなどで第1位を獲得している。そして、2007年のコブレンツ国際ギターフェスティバル＆コンクールでは、ファイナリストに選ばれた。

デイヴィッド・ラッセルは、彼の才能をこう表現している

「マット・パーマーは、私がここ数年聴いた中で、最も驚異的な才能を持った若手ギタリストの1人です。楽器の演奏能力はずば抜けており、ギターのレパートリーの中で、技術的に最も困難な作品でも、いとも簡単に演奏するところがとても印象的です」

同様に、セルジオ・アサドも以下のように述べている。

「パーマーは4連音を3本の指で弾く独特のテクニックを開発した人で、このテクニックは他のギタリストも挑戦してきたが、最高のレベルに達したのは彼であり、純粋な音楽になっている」

パーマーは、テネシー州の北東に位置するフォール・ブランチという農村の小都市で育ち10歳の時にエレキギターを始めた。

「2人の兄と私の3人で、短期間、近くの楽器店でレッスンを受けましたが、ギタリストを友人に持つ長兄が、急速に上手くなりました。私も兄に遅れないように努力しました。兄の部屋に忍び込んでタブ譜やCD、ビデオを盗んだりもしました。この頃練習した音楽のほとんどがヘヴィメタルでした。好きなギタリストは、マーティ・フリードマン、ジェイソン・ベーカー、ポール・ギルバート、ランディー・ローズ、イングウェイ・マルムスティーン、ダイムバッグ・ダレルでした。私は、正規のレッスンを飛ばしてきたので、当時は譜面も読めませんでした。ですからほとんどの新曲はタブ譜や耳で覚えました」

「19～20歳になるまで、私はエレキギターを弾くのが得意でした。指の動きも良く、聴音も優れていましたが、作品の解釈や音楽性についてはほとんど無知でした。私が関心を持ったのはテクニックを誇示することであり、極端な激しい演奏でした。ちょうどその頃、母親がクリストファー・パークニングのCDを買ってくれたのです。しかし、興味がなかったのですぐにクローゼットに仕舞いました」

「ところがある日、それを聴いてみることにしたのです。まったく驚きました。そのCDの中から何曲かを耳で覚えたのですが、自分に演奏出来ないものであることを初めて知ったのです。これこそが、私をクラシックギターに惹きつけ、私が克服すべき課題が何であるかを教えてくれたのです」

「当時20歳だった私は、大学を受験することにしました。入学試験のオーディションでは、バッハの《無伴奏ヴァイオリン・ソナタBWV1001》から〈フーガ〉とタレガの〈アランブラの想い出〉を演奏しました。いずれもパークニングのCDを聴いて耳で覚えた曲です」

「私がクラシックギターを始めた時、爪の形から、弦への当て方、アルペジョや音階の弾き方など、すべてが新しい経験でした。エレキギターを10年間弾いてきただけに、初めてギターを習い始めた時のようなフラストレーションを何度も経験しましたが、練習法や演奏方法について、学ぶことすべてが新鮮でわくわくしました。毎週、大学のパフォーマンスクラスで素晴らしい新曲を聴きました。その全てを覚えたかったのですが、そのレベルに到達するまで、私は辛抱強く待たねばなりませんでした」

●デビューアルバム『かつて音に聞こえしイタリカ』

パーマーの華々しい演奏は、ホアキン・ロドリーゴの劇的なフラメンコ調の作品〈かつて音に聞こえしイタリカ〉をタイトルとした彼のデビューCDで明らかになった。このアルバムには、ホアキン・トゥリーナの音色豊かな〈ソナタOp.61〉、セルゲイ・ルドネフのセンチメンタルな〈古い菩提樹〉、マヌエル・マリア・ポンセの〈南のソナチネ〉、フランシスコ・タレガの美しい〈エンデチャとオレムス〉、〈プレリュード第10番ニ長調〉、〈同 第11番ニ短調〉、マウロ・ジュリアーニのリリカルな〈バラOp.46-9〉、シテパン・ラックの〈ソナタ・モンゴリアーナ〉が収録されている。

「アルバムに録音したのは、ほとんどが20世紀の作品ですが、聴く人に何かを感じさせるバラエティーに富んだものにしました」

「秋には、次のCDを制作する計画ですが、アセンシオ、ポンセ、タレガ、バッハ、アサド、ミランダなどの作品をレコーディングします。加えて、2014年には『巨匠ギタリスト・シリーズ第2巻』を出版したいと思っています」

●テクニック教本『巨匠ギタリスト・シリーズ』の*a m i*スケール奏法

パーマーは、ミシガン州のインターロケンで開かれたサマーフェスティバルで指導を行なったことがある。そして彼は、現在、ワシントンDCの郊外にあるプライベート・スタジオで教えている他、メリーランド州のチェスタータウンにあるワシントン短期大学で教職に就いている。

彼は、高度なギターテクニックに焦点を当てたシリーズ本『巨匠ギタリスト・

シリーズ第１巻』を出版した。この本は、右手*a m i*によるスケール奏法をマスターする方法について解説している。

「これは*i*と*m*を交互に使ってスケールを演奏するのではなく、音階のすべての音を*a m i*の３指を使って正確に演奏するテクニックです」

「この手法を使えば、さほど努力せずに、伝統的な*i m*の交互奏法よりもはるかに速いスピードでスケール演奏を可能にします。*a m i*奏法はナルシソ・イエペスのような多くの演奏家によって使われてきた奏法ですが、私の手法は、これとはまったく違ったユニークな奏法です。それは、私が経験してきたバックグラウンドのお蔭です」

「私は、ピッキングスタイルによるエレキギターの演奏からスタートしましたから、クラシックギターを勉強し始めたときは、手がギターに馴染まなかったのです」

「左手はフレットの上で何でも出来るように感じましたが、右手はまったく未開発でした。このことは速い指使いが求められたときに明らかになりました。CDを聴いていて、速いスケールが*i m*の交互奏法で演奏されているのを知って、驚きと恐怖を覚えました。何故なら、私は*i m*をそれほど速く動かすことが出来なかったからです」

「そこで、左手の動きにシンクロする右手を作るためのテクニックを探し始めたのです。いろいろな実験を行なった結果、その解決策は*a m i*のパターンを使うことだと気付いたのです。しかしながら、幅広いシナリオに対応出来るように指を同一速度で動かすシステムを開発しなければなりませんでした。*a m i*のパターンは、同じ弦で３つの音を出すスケールパターンであれば美しく機能しますが、弦を移動するスケールの場合は上手くいきません。それで、私のレパートリーすべてについて、右手の運指を変えなければならなくなったのです。長年これに取り組んだ結果、最後にたどりついたのは、ヘヴィメタルやクラシックや新しいアイディアを融合させたスケールの弾き方です。これはすべてのレパートリーに使えるシステムです。このシステムは、いかなる速さであれ、私が望むどのような音楽でも、スケールを効率的に演奏できる手法です。流れるような音を簡単に作り出せるので、非常に音楽的で美しいと感じています」

マット・パーマー

●あがり症対策・レパートリーの作り方・聴衆を惹きつけるコツ

パーマーは、彼の経験に基づいた“あがり症”対策や、コンサートで演奏するレパートリーの作り方、聴衆の惹きつけ方などについて秘訣を語った。

「私はもともと、緊張するタイプの演奏家だったのですが、現在は、それほどではなくなりました。あがり症を克服するために役に立つ方法があります」

「まず初めに、演奏をするとき、自分がその音楽を聴いているように感じる精神状態にすることです。自分は、大勢の聴衆の前に座っているのではなく、唯そこにいて、聴衆と一緒に音楽を聴いているのだと想像するのです。目をつむり、ヴィブラートの音の揺れや、音が消えていくのを聴こうとします。そうするとプレッシャーから自分を解放することが出来、単純に音楽を作ることに集中出来ます。それに、練習室で充分準備したのですから、舞台の上で、不安を感じる必要はありません」

「もう一つ言いたいのは、自分が演奏したい曲が何であるかが、分かってきたことです。それまでは、スタイルの違う作品を演奏し、演奏プログラムには、テーマのようなものがなければならないと思っていました。もちろん、このやり方が間違っているとは言いません。しかし、自分が好きではない時代の作品を弾くと、１～２曲は必ず上手くいかないのです」

「今は、その時々に興味のある曲だけを演奏することにしています。そうすることによって聴衆と一体となり、触れ合いを感じることが出来るようになったのです。また、少し解釈を変えることによって、その時々に聴衆との関係で新しい経験をしています」

パーマーが現在使用している楽器は、コルア・パンヒューゼンが2005年に製作したスプルーストップのギターである。

「この楽器の音色は、明るく、魅力的で、丸みがあります。音のプロジェクションも、サスティーンも優れていますから、コンサートホールでよく響きます」

彼は2014年６月22日に開催されるGFA（Guitar Foundation of America）で演奏することになっている。

詳しい情報と今後のコンサートスケジュールは以下を参照。

http://www.mattpalmerguitar.com/
http://www.youtube.com/user/mattttheguitarist